

会派視察報告書

会派名 自民クラブ

代表者名 嶋内九一

1 日 ち	令和5年 1月31日 (火)
2 視 察 先 研修名、主催者及び会場	テーブルウェア・フェスティバル2023 東京ドーム 主催：テーブルウェア・フェスティバル実行委員会
3 参 加 者	嶋内九一 柴田雅也 若尾敏之 吉田企貴 城處裕二 玉置真一 山田 徹
4 調査・研修の テーマ	テーブルウェア・フェスティバル2023について
5 主な内容	テーブルウェア・フェスティバル2023 ～暮らしを彩る器展～ 特別企画Ⅰ Galerie de Paris ～ パリを巡る 特別企画Ⅱ 美の有田焼 ～ 伝統と革新 ～ 特別企画 ～30年の歩み～ 日本の器を訪ねて 等
6 所感、提言事項、課 題等	<p>【議員氏名】嶋内九一</p> <p>3年ぶりの通常開催が出来たことを大変嬉しく思う。アフターコロナを見据えながら、セラミックバレー『世界は美濃に憧れる』実現に向け、国内外に大いに発信して行って欲しい。</p> <p>【議員氏名】若尾敏之</p> <p>1993年から始まった日本の名窯から海外ブランドまでが一堂に会する国内最大級の「器の祭典」が1月27日から2月5日まで開催されました。朝10時のオープンと同時に入場しました。毎年、入り口では行列が見受けられましたが、今年はスムーズに入ることが出来、コロナの影響を考えずにはられませんでした。中に入ると多治見のブースがいつもと違っていましたが、出展者の減少が影響していると思われますが、隣のブースに土岐市と有田町が並んで出展されているなど工夫が見られました。また、特設ステージや特集企画展、ゲストによる暮らしを彩る食空間などのすぐそばという場所での展開は、大いに期待できました。東京という会場設定が入場者数増に一役買っていることは理解した上で、毎年訪れている感じから若干の入場者数の減を感じました。しかし、東京で陶器の街「多治見」は、大いにアピール出来ていると思うので、これからの販路拡大にみんなで協力して取り組むべきであると再認識しました。</p>

6 所感、提言事項、課題等

【議員氏名】柴田雅也

2021年よりオンライン開催や東京ドームシティ分散開催されてきたテーブルウェアフェスティバルが東京ドーム実会場で3年ぶりの開催となった。多治見市の出展ブース「暮らしを楽しむ器」～美濃焼・多治見において、どのような戦略を以って、商品構成をしているのかについて、興味深く視察した。今回は出展位置、レイアウトが大きく変わったと共に、出展者もこれまで以上に、窯元が多く参加して、自社ブランドの製品開発に取り組んでいるとの印象を強く感じた。また、どの出展者も、それぞれが特徴を活かして、商品の価格帯アップに取り組んでいて、それが、美濃焼ブランドの向上に繋げようとしている取り組みをしている印象を持った。

美濃焼ブランドの向上への取り組みは、セラミックバレー構想と連動して、将来に向けて重要なテーマである。今後も強く注視していきたいと思う。

【議員氏名】吉田企貴

例年に比べて出展社数が減って来てはいたものの、出店場所が変わったこともあり、多治見ブースは見栄えが良くなっていた。レイアウトも一新されており、市の助成金も有効に活用されたように感じた。来場者の客層は例年通り恒例の女性が多いものの、若い世代も少なく無かった。今後は、BtoCだけではなく、多治見の商社が得意とするBtoBに繋がる様な展示会も考えることも大切かもしれない。

【議員氏名】城處裕二

東京ドーム会場での開催に3年ぶりに参加させていただいた。前回より来場者は少ない感じがした。未だまだコロナ禍の影響は払拭されてないようである。展示内容については、セラミックバレー構想の元、リブランディングされつつあり以前にも増して、付加価値のついた高級感の有る品揃えで有ると感じた。『世界は美濃に憧れる』の実現を目指し奮闘されていると様子が見て取れた。一点素人目線では有るが、3市が産地としてそれぞれブース展開されるなか「美濃焼」をどう位置づけるのか難しさを感じた。

【議員氏名】 玉置真一

志野、織部、黄瀬戸など高価な作家さん物も大切ですが普段使いできる器にも質感を求める思考が増えていると感じました。

このフェスは一般の方が入場料金を払って買い物に来てみえます。

高価な器もありましたが自分の目で見て購入されてました。

日本各地の焼き物を見ましたが多治見美濃焼ブースも展示クオリティー高く賑わってました。今後美濃焼の益々の国内、そして海外への発信に期待致します。

【議員氏名】 山田 徹

東京ドームという広い会場であるが、場内ではテーブルウェアコンテストの受賞作品を中央に配置し、北欧ブランド食器の展示、専門家や有名人のステージがあるなど全体に華やかで飽きさせない「魅せる」内容は多くの来場者を満足させていると感じた。やきものは美濃焼以外にも有田焼・波佐見焼、近隣では瀬戸焼や常滑焼なども出店しており、それぞれの特設ブースがあり、それぞれが特色を生かした展示をしていた。その中でも美濃焼は前回と違う高級感の溢れるイメージを前面に押し出して陳列していた。斬新なデザインや食器をセットにすることでの調和のとれた展示が並び新たな一面を見せていると感じた。日用品としての美濃焼ではなく高級感を感じさせる陳列と品揃えは素晴らしいと思った。

7 写 真 等

※視察の場合は必須、研修の場合は任意



※視察先、研修先ごとに1枚作成すること。

※「6 所感、提言事項、課題等」は、参加者全員分を記載すること。